



I
都市計画マスタープラン
の策定に当たって

II
相模原市の概況

III
都市づくりの課題

IV 全体構想

IV
全体構想

V
区別構想

VI
実現化方策



1 都市づくりの基本理念と将来像

相模原市総合計画*基本構想に示される「基本理念」と「将来像」の実現に向けた都市づくりを進めます。

基本理念

わたしたちのまちは、丹沢の雄大な山なみ、相模川の清らかな流れ、相模野の広大な台地に抱かれ、豊かな自然の恵みの下、歴史と文化が培われ、先人の知恵とたゆまぬ努力により発展してきました。

しかし、わたしたちを取り巻く社会は、かつて経験したことのない人口減少と世界に類を見ない高齢化という大きな課題に直面していきます。また、AI*、IoT*といった先端技術の急速な進展、リニア中央新幹線の整備に伴う経済・交流圏域の拡大などが、人々の暮らしや働き方に大きな変革をもたらそうとしています。

そうした社会の変化に対応し、人、自然、産業、文化などの地域資源を生かし、市民生活の質を向上させ、住み続けたいと思える快適で活力のある持続可能なまちを形成していくことは、わたしたちの責務です。

わたしたちは、共に支え合い、豊かな自然を守り育てながら、安心して住み慣れた地域で暮らせる環境をつくるとともに、ここに集う人や企業との交流を進めることにより、地域への愛着と誇りを持てるまちを実現します。

将来像

「潤いと活力に満ち 笑顔と希望があふれるまち さがみはら」



2 都市づくりの基本目標

「将来像」の実現に向けて、次の4つの都市づくりの基本目標を設定します。

基本目標1 『活力と交流が新たな価値や魅力を創造するまち』

◇首都圏南西部の中核となる拠点の形成などを通じて、人口減少社会においても活力とにぎわいのあるまちづくりを進めます。あわせて、水源地域の豊かな自然、文化、スポーツなどの地域資源を活用して、市内はもとより、国内外から多くの人や企業を呼び込み、更なる交流を生み出すことで、新たな価値や魅力が創造されるまちをつくります。

基本目標2 『人と自然が共生するまち』

◇地球温暖化をはじめ、深刻化する環境問題に対して、低炭素社会*の実現や循環型社会の形成に向けた取組を進めます。また、広大で美しい山なみや豊富な水資源を有するまちとして、恵み豊かな自然を守り育てるとともに、安全で快適な生活環境を保全し、創出する取組を進め、自然環境と都市環境を併せ持つ本市の特徴を生かしながら、多様な主体との連携・協働により、人と自然が共生するやすらぎと潤いのあるまちをつくります。

基本目標3 『安全で安心な暮らしやすいまち』

◇自然災害や事故などから市民の生命と財産を守るとともに、良好な住環境と魅力ある景観の形成により、安全で安心な暮らしやすいまちをつくります。

基本目標4 『多様な主体との連携・協働により持続的に発展するまち』

◇多様な主体との連携・協働により、個性豊かな地域コミュニティをつくります。また、積極的な情報発信により市民と行政が課題や目標を共有し、不断の行財政改革を進めることで、持続的に発展するまちをつくります。



3 将来都市構造

(1) 将来都市構造の基本的な考え方

将来都市構造は、「都市づくりの基本目標」のもと、「ゾーン」、「エリア」、「拠点」及び「軸」の4つの要素により、将来の目指すべき都市のすがたを概念的に示すものです。

将来都市構造の構築に当たっては、今後の人口減少や超高齢化の進行を踏まえ、人口動向、都市基盤*の状況や交通ネットワーク、ライフスタイルに応じた、『社会情勢等の変化に柔軟に適應した集約連携型のまち』を目指します。

また、圏央道やリニア中央新幹線など主要な軸が交差する都市として、豊かな自然資源を生かしながら、広域交流拠点の形成の推進や、リニア中央新幹線と他の交通ネットワークとの結節を通じて、周辺都市との連携を図るとともに、国内外から本市へのアクセスの向上を図ります。

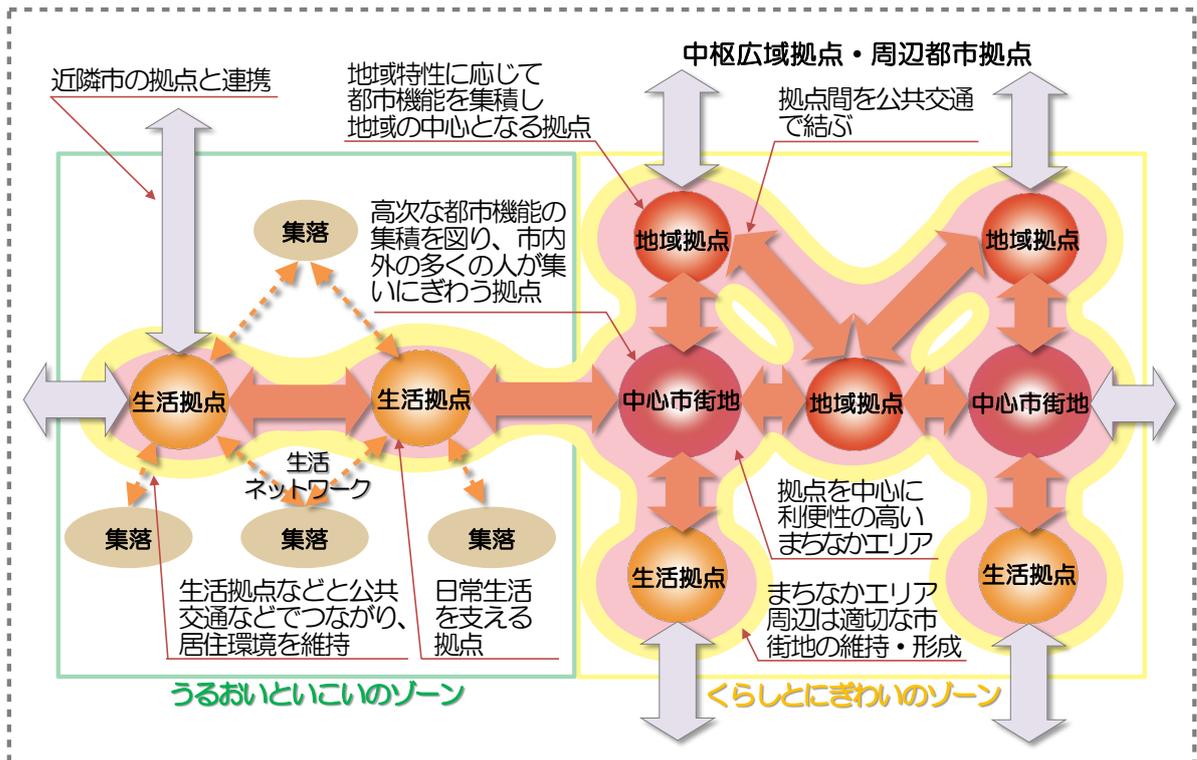
(2) 将来都市構造の視点

将来都市構造を考える上では、次の3つの視点を反映します。

① 豊かな暮らしを実現する視点

中心市街地や地域拠点、更には身近な生活拠点に都市機能*を集積し、拠点間を公共交通等で結び、多様な住み方ができるまちを形成します。

<概念図>



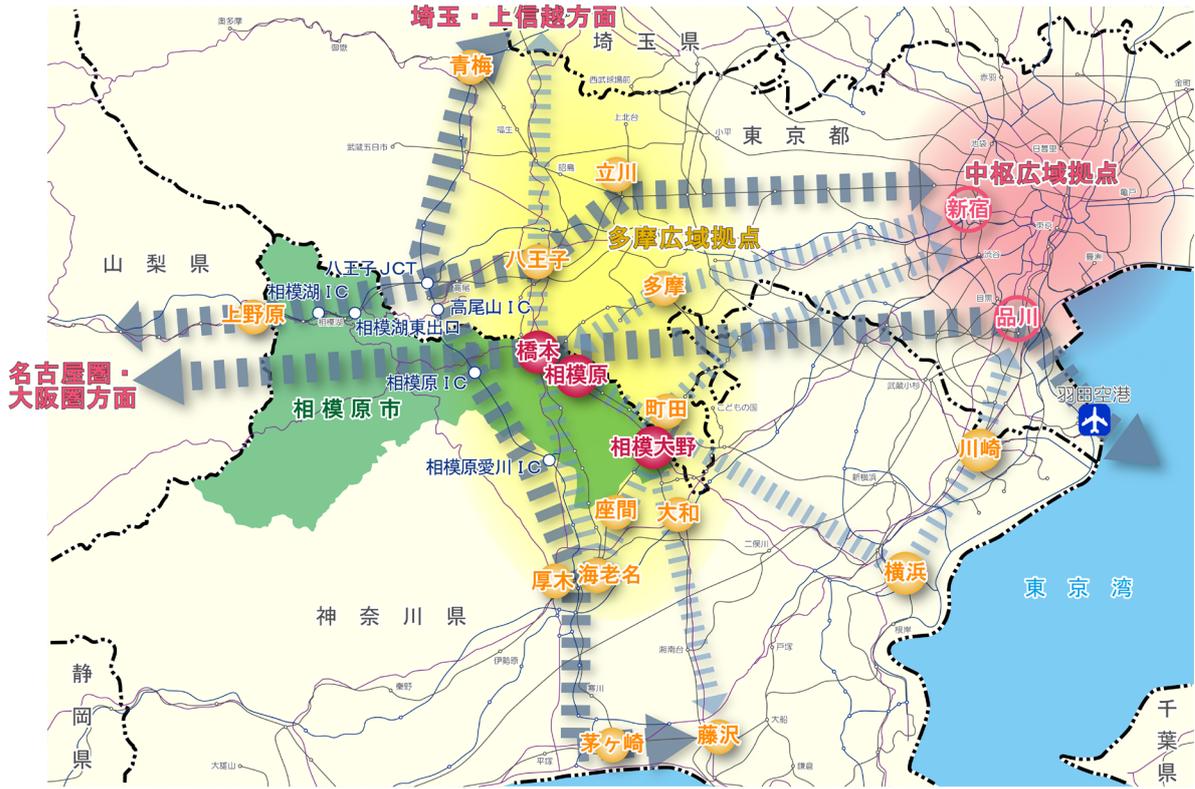
I 都市計画マスタープランの策定に当たって
II 相模原市の概況
III 都市づくりの課題
IV 全体構想
V 区別構想
VI 実現化方策



② 都市活力を向上する視点

圏央道、リニア中央新幹線などの広域交通ネットワークを形成することで、経済や交流の圏域を拡大し、更なる活力と魅力を創出するまちを形成します。

<概念図>



凡		例	
■ 拠点		■ 軸	
●	中心市街地	◄◄	広域連携軸
○	周辺の主な都市	◄	都市間連携軸
○	東京中心部		

I 都市計画マスタープランの策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

V 区別構想

VI 実現化方策



I 都市計画マスタープランの策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

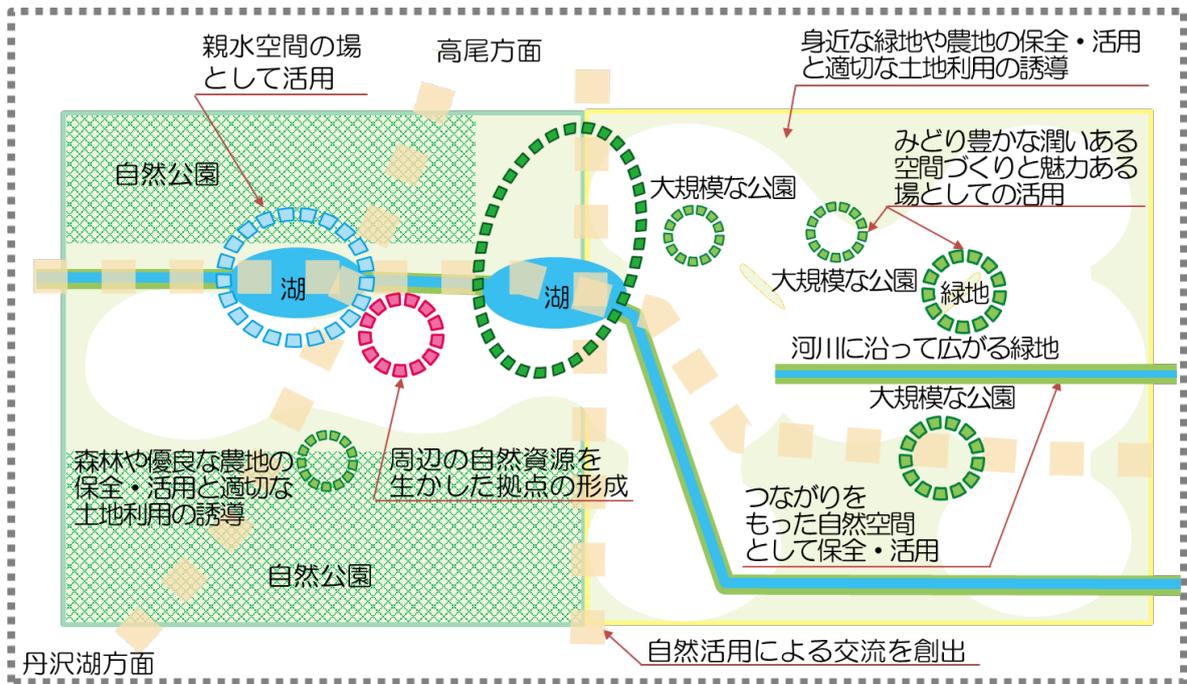
V 区別構想

VI 実現化方策

③ 自然環境を守り生かす視点

自然環境と都市環境を併せ持つ本市の特徴を生かし、人と自然が共生するやすらぎと潤いのあるまちを形成します。

<概念図>



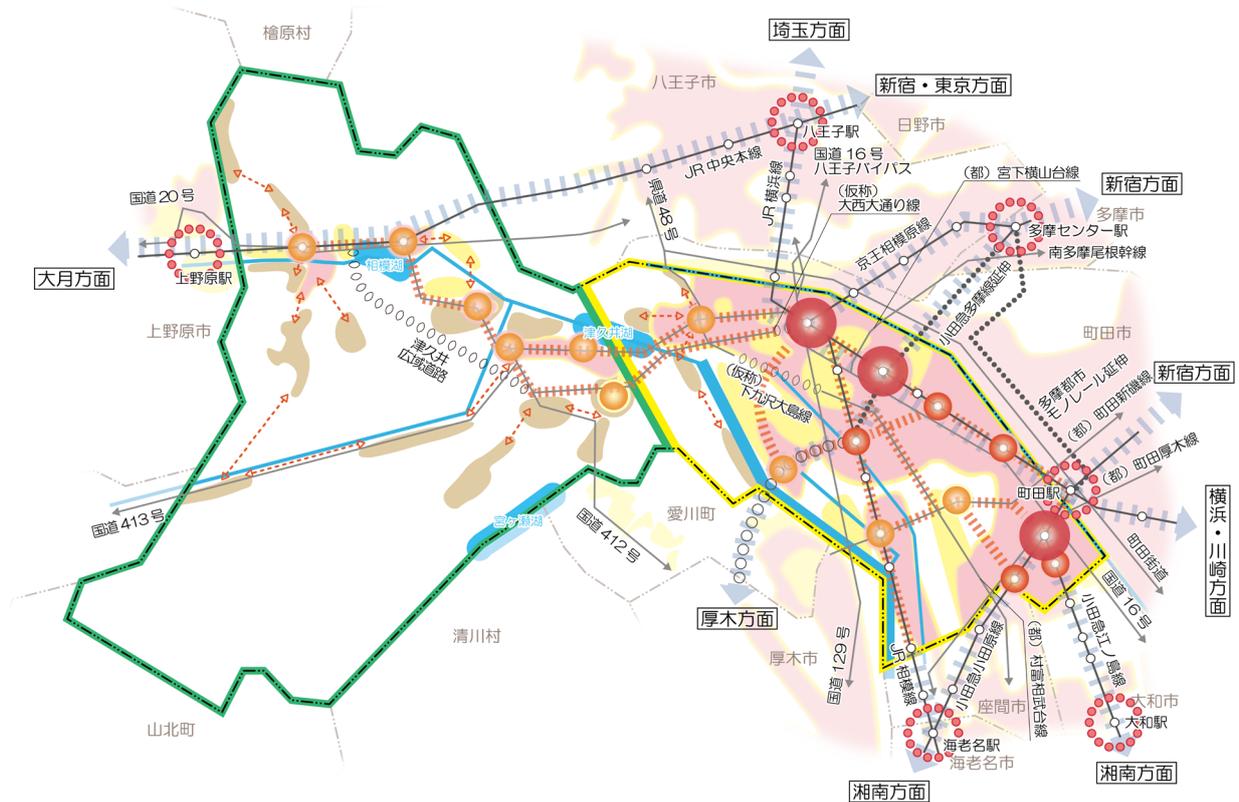


(3) 本市が目指す将来都市構造

① 豊かな暮らしを実現する都市構造

- 中心市街地から生活拠点まで役割に応じた都市機能*の集積を図る拠点を形成します。
- 拠点間を有機的に公共交通でつなぎ、拠点を有する場所を中心に、利便性の高いにぎわいのある「まちなかエリア」を形成し、その周りの「周辺市街地エリア」の適切な維持・形成を図ります。
- 「集落エリア」は、生活拠点や近隣市の拠点と公共交通などでつながりながら、良好な居住環境を維持します。

<豊かな暮らしを実現する都市構造>



凡 例	
<p>■ ゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> くらしとにぎわいのゾーン うるおいとこいのゾーン <p>■ エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかエリア 周辺市街地エリア 集落エリア 	<p>■ 拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地 地域拠点 生活拠点
<p>■ 軸</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市間連携軸 拠点間連携軸 生活ネットワーク 	<p>■ 交通網</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 鉄道：整備検討 鉄道：構想 道路 道路：構想

I 都市計画マスタープランの策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

V 区別構想

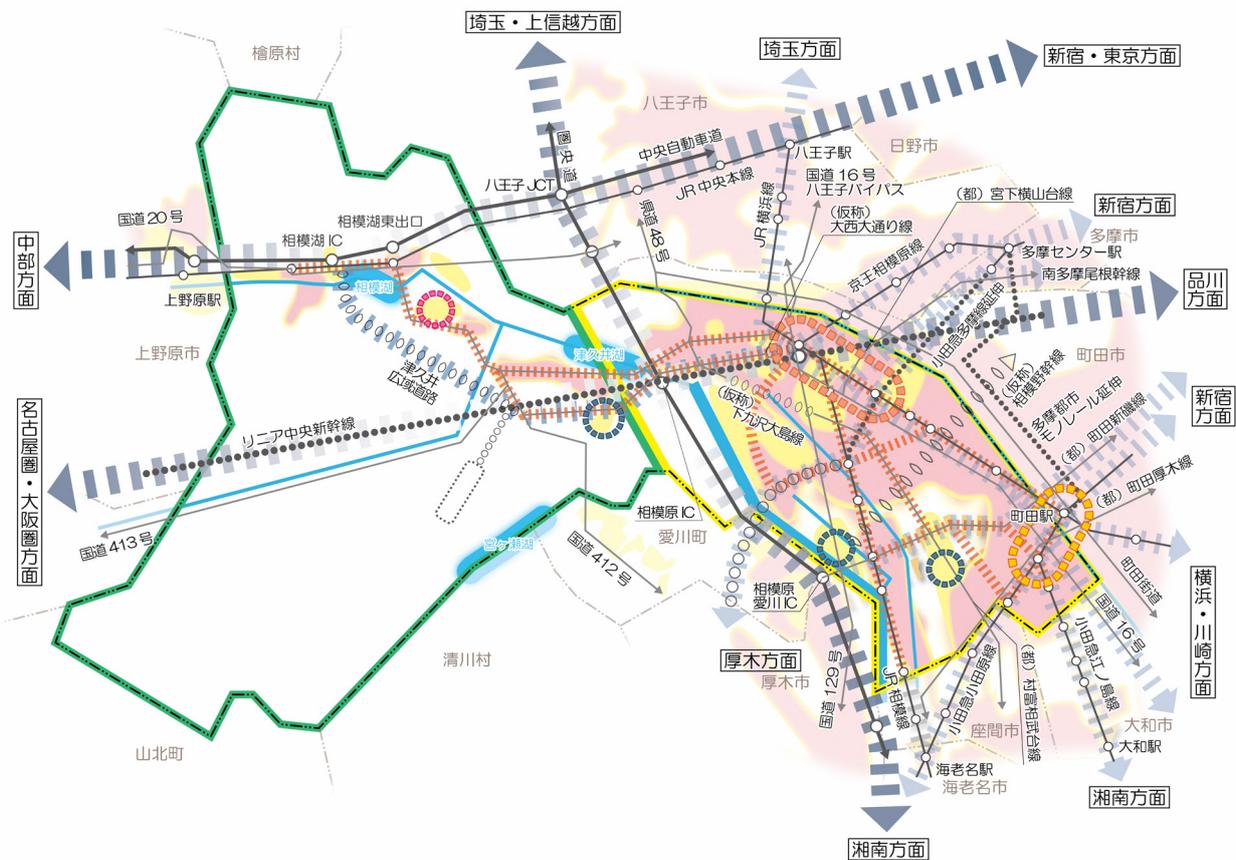
VI 実現化方策



② 都市活力を向上する都市構造

- ・圏央道、リニア中央新幹線などの広域交通ネットワークや圏央道インターチェンジと産業・経済活動の場をつなぐ重要な路線を生かし、連携・交流を促進します。
- ・工業、物流、農業、観光などの産業集積により発展が見込まれる地区を効果的に活用します。
- ・多様な産業が展開できるよう、適正かつ柔軟な土地利用を図ります。

<都市活力を向上する都市構造>



凡 例			
<p>■ ゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> くらしとにぎわいのゾーン うるおいとこいのゾーン <p>■ エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかエリア 周辺市街地エリア 	<p>■ 拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな産業を中心とした拠点 交流・レクリエーション拠点 首都圏南西部における広域交流拠点 都市の連携拠点 	<p>■ 軸</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域連携軸 都市間連携軸 	<p>■ 交通網</p> <ul style="list-style-type: none"> ●●○● リニア中央新幹線 ○●○● リニア中央新幹線：車両基地 —○— 鉄道 ●●●● 鉄道：整備検討 ○●○● 鉄道：構想 —○— 自動車専用道路 ○●○● 自動車専用道路：構想 — — 道路 ○●○● 道路：構想

I 都市計画マスタープランの策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

V 区別構想

VI 実現化方策



③ 自然環境を守り生かす都市構造

- ・大規模な公園や河川とその周囲の緑地など、自然的資源を保全・活用します。
- ・自然公園*、森林や優良な農地を保全・活用します。
- ・環境的価値・経済的価値のある自然資源を活用し、交流を創出します。

＜自然環境を守り生かす都市構造＞



凡 例			
■ ゾーン くらしとにぎわいのゾーン うるおいとこいのゾーン	■ 拠点 交流・レクリエーション拠点 水とみどりのふれあい交流拠点 みどりの拠点 水辺の拠点	■ 軸 水とみどりの軸 自然活用による交流	■ 交通網 鉄道：整備検討 鉄道：構想 自動車専用道路 自動車専用道路：構想 道路 道路：構想
■ エリア 自然調和エリア 自然公園			

I 都市計画マスタープランの策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

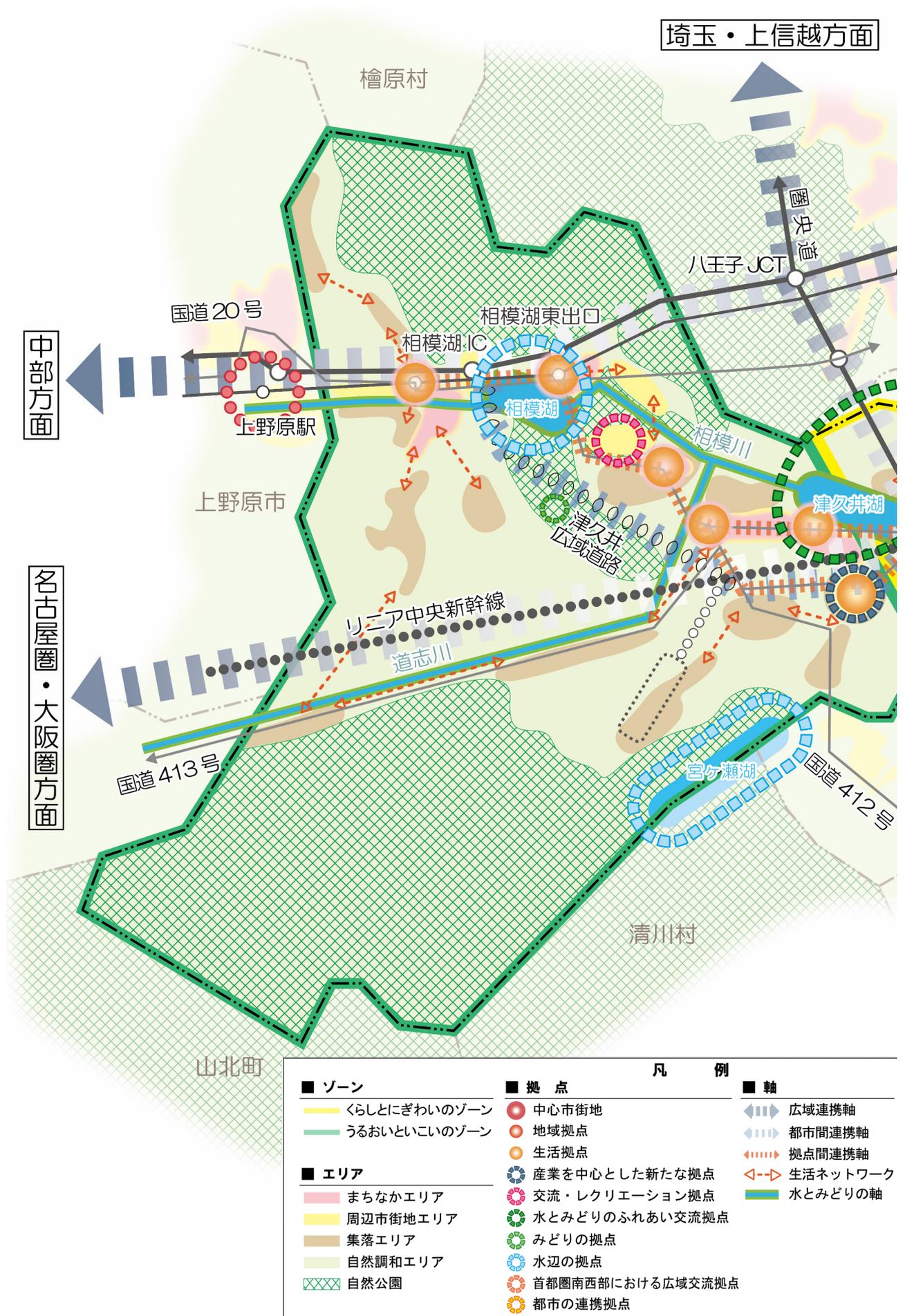
IV 全体構想

V 区別構想

VI 実現化方策



- I 都市計画マスタープランの策定に当たって
- II 相模原市の概況
- III 都市づくりの課題
- IV 全体構想
- V 区別構想
- VI 実現化方策





○ ゾーン

 くらしとにぎわいのゾーン (都市部)	拠点を中心とした多様な都市機能*の維持・強化を図るとともに、水とみどりの保全・再生・活用により、くらしとにぎわいが豊かな環境と共生する質の高い都市づくりを推進 本計画においては、『相模原都市計画区域』を表す当該ゾーンを、『都市部』という
 うるおいといこいのゾーン (中山間地域)	水源地域の豊かな水とみどりの保全・再生・活用に取り組むとともに、ゆとりある住環境や交通環境などの生活に必要な機能の維持・充実を図り、立地特性を生かした土地利用や地域資源の活用などにより、地域の特性を生かした魅力ある都市づくりを推進 本計画においては、『相模湖津久井都市計画区域及び都市計画区域外』を表す当該ゾーンを、『中山間地域』という

○ エリア

 まちなかエリア	居住を誘導し、商業・業務・サービスなど各機能の調和が図られた土地利用により、利便性が高くにぎわいのある市街地を形成
 周辺市街地エリア	長期的にまちなかエリアへゆるやかに居住誘導を行うとともに、住環境と調和した適正な市街地を形成
 集落エリア	良好な自然環境や営農環境との調和を図り、地域コミュニティの維持など地域特性に配慮した適切な土地利用を誘導
 自然調和エリア	自然公園*などの水源地域の自然環境、優良な農地や森林、市街地の貴重なみどりなどの保全、活用を図るとともに、周辺環境と調和した適切な土地利用を誘導
 自然公園	優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的として、自然公園法（昭和32年法律第161号）によって指定された公園

○ 軸

 広域連携軸	リニア中央新幹線、圏央道、中央自動車道	広域的な連携・交流を促進し、都市の活力向上や交流人口の増加を推進
 都市間連携軸	鉄道、小田急多摩線延伸、国道16号、国道20号、津久井広域道路*（構想含む）、（仮称）大西大通り線、（都）宮下横山台線、（都）町田新磯線	近隣市の拠点との連携・補完の確保とともに、広域機能連携軸と結節し、交通環境の優位性を生かし、周辺市と活発に連携・交流
 拠点間連携軸	鉄道、小田急多摩線延伸、主要なバス路線、幹線快速バスシステム、津久井広域道路を活用した公共交通	拠点間を結ぶ公共交通の維持確保や道路整備により、拠点の機能強化と移動環境を確保
 生活ネットワーク	路線バス、乗合タクシー*など	集落エリアにおける生活に必要な機能の維持
 水とみどりの軸	相模川、道志川、道保川、姥川、八瀬川、境川とその斜面林	環境保全や景観形成、生物多様性の確保等のためのつながりをもった自然空間として保全



○ 拠点

 <p>首都圏南西部における広域交流拠点</p>	<p>橋本駅周辺及び相模原駅周辺の一体的な範囲</p>	<p>高次都市機能*の集積を促進するとともに、各駅周辺の特性を生かした機能分担のもとで、更なる商業・業務機能の集積を図り、アクセス性の高い立地特性を生かし、首都圏南西部における中心的な地区として周辺都市からの求心性を高める拠点を形成</p>
 <p>都市の連携拠点</p>	<p>相模大野駅周辺と近接する町田駅周辺を含む一体的な範囲</p>	<p>近接する町田駅周辺と連携し、商業、業務、教育、文化等の機能が集積する多くの人が行き交うにぎわいのある拠点を形成</p>
 <p>中心市街地</p>	<p>橋本駅周辺、相模原駅周辺、相模大野駅周辺</p>	<p>都市の中心として、商業・業務、学術・文化、居住、情報、娯楽、行政などの高次都市機能の維持・誘導を図り、市内外の多くの人が集いにぎわう拠点を形成</p>
 <p>地域拠点</p>	<p>淵野辺駅周辺、上溝駅周辺、小田急相模原駅周辺、東林間駅周辺、古淵駅周辺</p>	<p>利便性の高い日常生活を営むための商業・サービスなどの都市機能*を維持・誘導し、地域と一体となった拠点を形成</p>
 <p>生活拠点</p>	<p>城山総合事務所周辺、津久井総合事務所周辺、相模湖駅周辺、藤野駅周辺、三ヶ木周辺、寸沢嵐周辺、田名周辺、北里周辺、原当麻駅周辺、金原周辺</p>	<p>身近な生活サービスなどの機能を地域にに応じて維持・誘導し、地域住民の日常生活を支える拠点を形成</p>
 <p>産業を中心とした新たな拠点</p>	<p>当麻地区、麻溝台・新磯野地区、金原地区</p>	<p>都市の活力を支える多様な産業活動を主体とした機能が集積する拠点を形成</p>
 <p>交流・レクリエーション拠点</p>	<p>若柳地区</p>	<p>民間テーマパークの魅力を活用し、本市の観光交流を牽引する拠点を形成するとともに、周辺の観光資源を生かした産業創出の拠点を形成</p>
 <p>水とみどりのふれあい交流拠点</p>	<p>津久井湖、城山湖、県立津久井湖城山公園、(仮称)城山中央公園など</p>	<p>水とみどりの自然環境を背景に人、自然、まち、文化、歴史などが交わる場として資源を活用</p>
 <p>みどりの拠点</p>	<p>県立相模原公園・相模原麻溝公園、木もれびの森、淵野辺公園、横山公園、相模原北公園、(仮称)相模原市市民の森</p>	<p>みどり豊かな潤いある空間づくりを進めるとともに、多くの人々が利用できる魅力ある場として資源を活用</p>
 <p>水辺の拠点</p>	<p>相模湖周辺、宮ヶ瀬湖周辺</p>	<p>豊かな自然環境の保全とともに、人と水のふれあう親水空間の場として資源を活用</p>

I 都市計画マスタープランの策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

V 区別構想

VI 実現化方策



(4) まちのイメージ

ここでは、将来における本市らしい生活の様子を想定し、エリア・拠点ごとに整理します。市民が考える多様なライフスタイルを尊重し、市内のどこに住んでいても、拠点や市外とのつながりの中で、健康で文化的な生活が営めるまちづくりを進めます。

<p style="writing-mode: vertical-rl;">中心市街地周辺</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">まちなかエリア</p>	 <p>にぎわいのあるまちなかの中高層住宅などに住み、日用品から専門品まで幅広い買い物ができ、オフィス、ホテルなど、高次都市機能*がそろう都市生活を楽しめる暮らし</p>
	 <p>駅の近くにある中層住宅や戸建住宅などに住み、地域の中心で日常生活に必要な施設の多くが身近な場所にそろう便利な暮らし</p>

- I 都市計画マスタープランの策定に当たって
- II 相模原市の概況
- III 都市づくりの課題
- IV 全体構想
- V 区別構想
- VI 実現化方策



I 都市計画マスタープランの策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

V 区別構想

VI 実現化方策

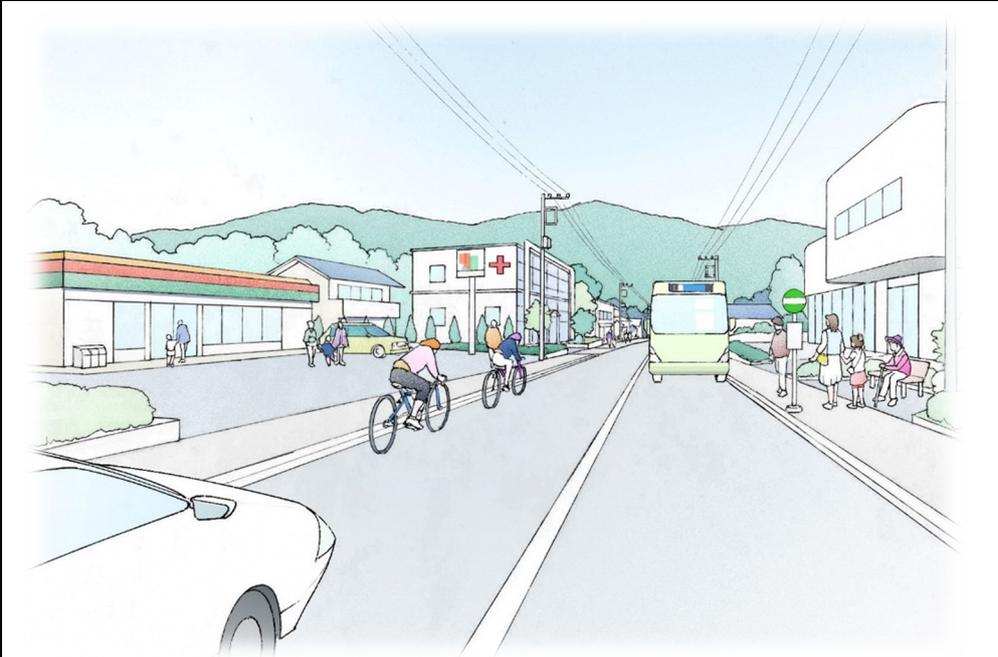
生活拠点周辺（都市部*）



駅や主要なバス停留所の近くにある戸建住宅などに住み、日常の買い物など生活に必要な施設が身近にある便利な暮らし

まちなかエリア

生活拠点周辺（中山間地域*）



豊かな自然環境に囲まれつつ、都市部にアクセスしやすい駅やバス停留所の近くでゆとりがある戸建住宅などに住み、日常生活に必要な施設が確保された暮らし



I 都市計画マスタープラン
の策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

V 区別構想

VI 実現化方策

周辺市街地エリア



居住環境との調和を保ちつつ、工業地など適正な市街地を形成

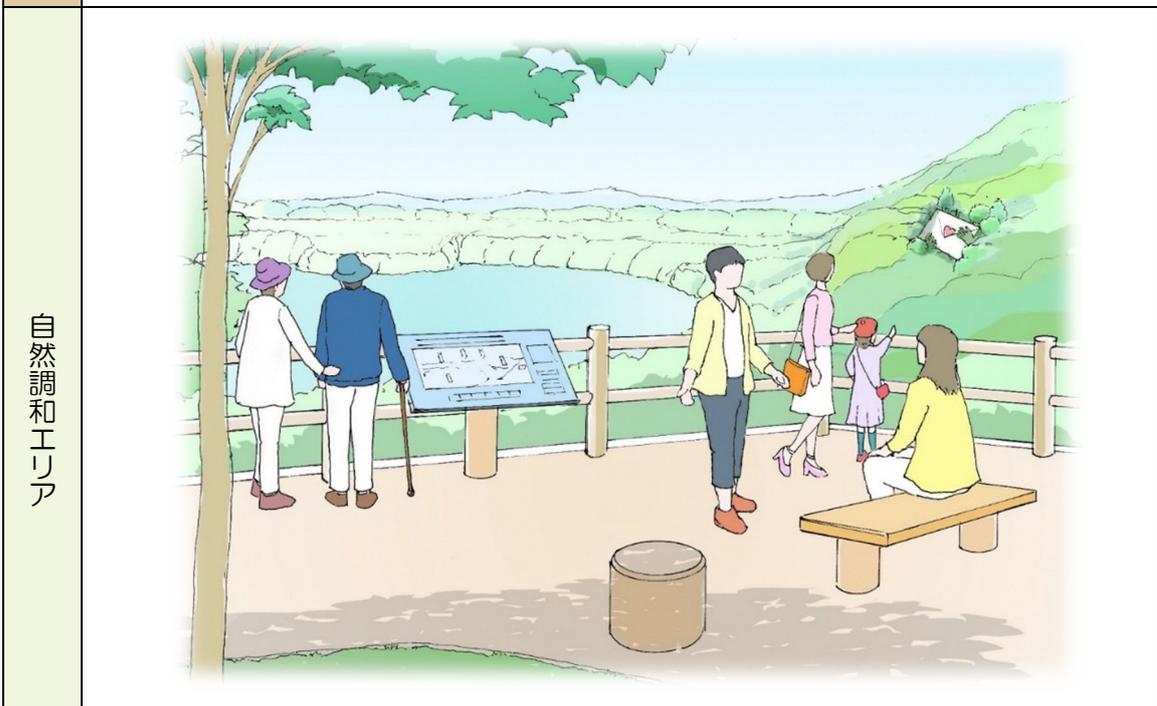


職住近接の環境の中で戸建住宅などに住み、日常生活に必要な施設は、隣接エリアで補完するなどゆとりを重視した暮らし



集落エリア

里地や里山の既存集落でゆとりある戸建住宅などに住み、地域コミュニティの中で農地・山林の維持・保全や自己実現をする暮らし



自然調和エリア

市内外からの観光・交流が盛んで、農地、山林など自然に囲まれた中で、観光、農林業などを営む暮らし

I 都市計画マスタープランの策定に当たって

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

V 区別構想

VI 実現化方策

I 都市計画マスタープランの策定に当たって

ここでは、まちのイメージとともに、周辺都市を含めて生活圏をイメージしたときに、中枢広域拠点である東京中心部や周辺の都市拠点も含めた拠点・集落間の連携・補完について、市民生活の視点から整理します。

II 相模原市の概況

III 都市づくりの課題

IV 全体構想

V 区別構想

VI 実現化方策

